

早蕨の切なきこぶし刈りにけり

田中裕明（『先生から手紙』）

田中裕明はほとんど前書きをつけない作家だが、例外的に『先生から手紙』には6句ある。いずれも、句集の序文を書いた人たちに贈られている。波多野爽波亡きあと、「青」の連衆の句集上木を、裕明が序文を書いて支えた。その方々の名前と句集名が記されている。掲句は、「西澤麻句集『美囊川』」という前書きをもつ。爽波先生に見ていただきたかったであろう句集の上梓に際して、裕明は、西澤麻さんの無念の思いを全身で受け止めている。「早蕨の切なきこぶし」は、麻さんの、「青」連衆の、そして田中裕明の思いでもあろう。

ほかに、

金泥を雪の棚田にかさねけり（「佛原明澄句集『棚田』」）

その一人麦踏みてきし集ひかな（「山口昭男編『季題別波多野爽波句集』」）

五線譜に新しき詩木の实降る（「福田雅子句集『五線譜』」）

紫は聖なる色や冬木立（「加藤喜代子句集『聖木曜日』」）

竹皮をぬいで素直になるために（「小井土公梨句集『絹の靴下』」）

がある。